

2021. 9. 1

鉄筋コンクリート造配筋標準図の改定・公表について

日建連 建築設計委員会（委員長・賀持剛一 大林組 常務執行役員 設計本部長）は、この度、「鉄筋コンクリート造配筋標準図」（2012年に建築業界全体で一般仕様として使用されることを目指して発行したものを）を2020年6月に続き、2021年9月に改定・公表いたしました。

【背景】

これまで鉄筋コンクリート造建築物における配筋標準図は、設計者毎に作成し、利用されてきました。そこで、日建連 建築設計委員会 構造設計部会では、異なる配筋標準図の使用による鉄筋工事の現場での混乱、配筋の誤りを減らすために、統一化した配筋標準図（初版）を2012年に作成・公表しました。

初版の公表から9年が経過し、建設会社、設計事務所でも共通仕様として広く使用され、最近では、個別の配筋図の追加依頼、鉄筋工事の現場からの追記要望を受けるようになりました。

今回の改定では、JIS G3112（日本産業規格）の2020年4月改定、「鉄筋コンクリート造 配筋指針・同解説」（日本建築学会）の2021年3月改定を受け、一般社団法人 日本建築構造技術者協会（以下JSCA）と協働して改定作業を行っています。なお、日建連 鉄筋コンクリート造配筋標準図は、初版同様に「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）、「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」（日本建築学会）、「建築工事標準仕様書・同解説 J A S S 5 鉄筋コンクリート工事」（日本建築学会）、「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」（日本建築学会）を参考に作成しています。

【概要】

JIS G3112（日本産業規格）が2020年4月に改定、「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」（日本建築学会）が2021年3月に改定されたことにより、以下に示す改定を行っています。

- ・ JIS G3112（日本産業規格）の改定により、鉄筋の種類をSD295A、SD295BからSD295に統一
- ・ 「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」（日本建築学会）の改定により、
「フレア溶接範囲（折曲げ開始点、鉄筋先端部からの離隔距離）（図2-3-3、表3-1-3）」、
「主筋のあき・2段筋の間隔（表2-4）」、「あき重ね継手のあき寸法（図3-1-3）」、
「軽量コンクリートを使用した場合のかぶり厚さ（§4）」を改定

今後も建設会社、設計事務所の共通の標準図として普及を図り、実現場における負担の軽減、建設工事の迅速化、ならびに施工品質の確保に更に貢献できると考えています。

なお、利用の方法については、日建連ホームページの出版物のコーナーからダウンロード可能です。

本件に関する問い合わせ先

（一社）日本建設業連合会（担当：村野）
e-mail：ken-sekk@nikkenren.or.jp（建築部 設計担当事務局）
東京都中央区八丁堀 2-5-1 東京建設会館